



## 2年サイエンスツアー(東京・筑波) 3日目 日本科学未来館

最終日の7月25日(水)は、日本科学未来館での研修でした。科学未来館は、宇宙、地球、人間という大きな視野で科学技術を捉え、「地球環境とフロンティア」「生命の科学と人間」「技術革新と未来」「産業科学技術と社会」という4分野のテーマを掲げて展示が行われていました。ここでは、各自が興味をもった展示施設について、インタープリター(展示解説員)や科学ボランティアの人たちと対話しながら、ワークシートを完成させていきました。

### 参加生徒の感想より

- 「水素エネルギーについて興味をもっていたので、インタープリターの方に詳しく教えていただけて、良かったです。」
- 「おもしろく科学を学ぶことができて良かった。いろいろな科学技術が自分の知らないところで使われていて、びっくりした。」
- 「最先端のロボットに触れることができて、とてもよい経験となった。」
- 「いろいろな機械が見れたし、何よりも“ASIMO”を見て、とてもうれしかった。」
- 「JAXAに引き続き、今回は居住スペースを見ることができたので、ISSに関する知識をさらに増やすことができて、良かった。」
- 「すばる観測シミュレーションの展示に興味をもった。天体観測について知らないことが多かったので、いろいろと知ることができました。」

## SSH報告

2年  
サイエンスツアー3日目  
日本科学未来館

平成19年度  
SSH生徒研究発表会



## 平成19年度 SSH生徒研究発表会 テーマ「和歌山県田辺湾におけるタマキビ類(巻貝類)のすみ分け に関する研究」についてポスターセッション発表



### 参加生徒の感想より

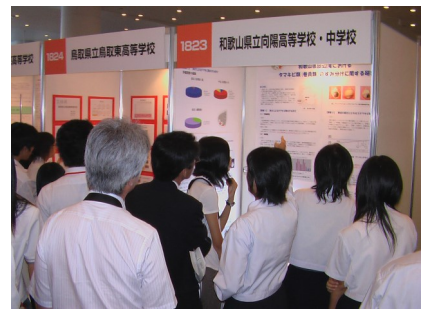
- 1年「僕たちと同じ高校生があのような研究をしていたなんて全く予想していませんでした。今回、生徒研究発表会に参加して、科学がとても身近なものに感じられました。」
- 1年「難しい内容のものが多かったですが、どの学校の発表もとても興味深く、自分もこのような研究をしてみたいと思いました。参加した3日間、とても充実していました。」
- 1年「どの学校の発表も、発表の仕方ですごくいいと思ったのに、発表の内容はさらにすごかった。細かい作業を通して、自分たちなりの結果を出すのが大変だと思った。」
- ポスターセッション発表を終えて
- 2年「始まるまでは緊張していましたが、思ったより会場の雰囲気が和やかだったのであつという間でした。今回初めて参加して、指摘を受けたり、様々な疑問点や問題点を発見することができました。この経験を活かして、よりよい研究にしていけるよう、がんばりたいと思いました。」

8月2・3日の2日間、「SSH平成19年度生徒研究発表会」がパシフィコ横浜で行われました。本校からは環境科学科2年生3名、1年生5名と教員4名が出席しました。発表会前日の1日は、ポスターセッション会場で発表の準備や練習を行いました。2年生「探究科学Ⅱ」の授業では各ゼミに分かれ、テーマ別課題研究に取り組んでいます。今回のポスターセッションでは、青木奈美さん・坂本育美さん・岩田亜佑美さん達が京都大学臨海実験所の宮崎勝己先生のご指導のもと研究している「和歌山県田辺湾におけるタマキビ類(巻貝類)のすみ分けやその行動について」の成果を発表しました。

1日目の全体会では開会の挨拶のあと、国立科学博物館動物研究部動物第三研究室長 窪寺恒己氏による「科学者としての魅力とやりがい〜深海に潜む巨大イカ類を追って〜」についての講演がありました。講演の最後には、参加生徒達に向けて、「科学する心・科学する力・科学する技を身につけ、日本の科学を支える人材に育ててください。」とメッセージが伝えられました。全体会のあとは、各分科会に分かれて、発表を聞きました。どの発表にも積極的に質問が出され、それに対する説明がなされていました。ポスターセッション会場でも、各校が競って自分たちの研究成果を説明し、とても活気のあるものでした。ポスターセッション発表に参加した3人も、初めは緊張しながら自分たちの研究内容について説明していましたが、説明を重ねるごとに緊張もほぐれていった様子でした。2日目はポスターセッション、各賞の表彰などが行われ、終了しました。来年度は、ポスターセッションのほか分科会での発表に参加することになります。来年に向けて、頑張っ



宮崎先生と一緒に . . .



ポスターセッション会場にて